和の体験でおもてなし

実籾高校 姉妹都市訪問団を

米国の姉妹都市アラバマ州タスカルーサ市からの青少年訪問団が6月14日から習志野市を訪れ、市内の高校生たちと交流した。

両市は昭和61年に姉妹都市提携を結び、青少年が国際感覚を養い、友好親善を図るために相互に訪問団を受け入れている。ポール・W・ブライアント高校、ノースリッジ高校、セントラル高校の生徒20名を含む訪問団はホームステイを通して、12日間の滞在中、日本への理解を進め、鎌倉ほかを訪れ、市内では谷津干潟自然観察センターなどを見学した。

実籾高校では吹奏楽部の演奏とチアリーディング部の演技で歓迎を受けた。タスカルーサ市姉妹都市委員会のリサ・キーズ専務理事は「素晴らしい体験ができ友情に感激しています」と挨拶した。タスカルーサ市の高校生たちはグループごとに、邦楽部による「箏（こと）演奏」、百人一首かるた部とのかるた、華茶道部による茶道を体験した。

邦楽部は箏で「さくら」、箏曲「さくら21」を披露。演奏の後は、タスカルーサの高校生に箏の演奏法を教え、折り紙の鶴などを贈った。キャメロン・ミラーさんは「日本の伝統楽器を弾くことができてよかった。美しい音色と形でした」と話していた。柔道場の畳の上では百人一首の対戦が行われ、正座して礼を交わし、札を取り合った。最後のおもてなしは、お好み焼きの調理。実籾高校の生徒たちが作り方を教え、上手に返す姿に歓声を上げ、言葉以上に気持ちを通じ合わせて、互いにお好み焼きを楽しんだ。

箏の演奏を体験

百人一首で対戦

地震に備えて避難訓練

津田沼PARCO

津田沼PARCOで6月18日、テナントスタッフによる震度5以上の地震を想定した「避難訓練」が行われた。

来店客で賑わう商業施設では、消防法の規定によって消防計画による訓練の実施が義務づけられている。津田沼PARCOも毎回訓練を欠かさず、テナントスタッフたちは「お客様を第一に」、避難誘導などを実践訓練し、どのように行動すればよいか考え、防火・防災についての意識を高めている。訓練に向けては、全館約150のテナントが各階ごとに自衛消防隊を編成。隊長、副隊長以下、避難誘導班のほか、消火班、救護班、扉の開閉を行う防護班がそれぞれ役割を担い、防火管理者を中心に訓練内容が検討された。

予備訓練の後、地震発生の知らせによって訓練本番が開始され、テナントスタッフは「お客様役」となった訓練参加者に落ち着いて行動し、腰を低くして落下物などから頭を守るよう呼びかけた。自衛消防隊の隊長は「耐震性の高いビルなので安全です」と説明。安全な避難経路が確保されるまで、この場所で待つよう指示し、ケガ人の有無の確認、応急手当てのできる医療従事者への協力、階段での避難が容易でない人のための配慮や一時避難場所について伝えられた。

防災センターから地震の震源は千葉県東方沖、北西部の震度は6弱、マグニチュード8・0の情報がもたらされた。その後、建物内外の安全確認によって、避難指示開始が館内にアナウンスされ、テナントスタッフは「残っているお客様はいませんか」と大きな声で呼びかけ、避難誘導班を先頭にA館、B館と建物ごとに決められた避難経路に従って誘導された。

訓練当日朝には大阪北部で震度6の地震があったばかり。「お客様役」の参加者も来店客の立場を考えながら誘導の動きを学び、繰り返しの訓練にも真剣に取組んだ。

避難訓練に合わせ、船橋市危機管理課の指導で起震車による地震体験も行われた。震度7の揺れを体験したテナントスタッフは「つかまっていても危なくて、身動きできませんでした。訓練を重ねて、お客様の避難誘導ができるようにしたい」と話していた。

訓練に立ち会った船橋東消防署担当者は消火器の確認、心の準備について喚起し、株式会社パルコ津田沼店の野口香苗店長は「どのように動けばいいのか。訓練でしっかり実践し、体験したことを身体に覚え込ませて下さい」と述べた。

「お客様役」を誘導する避難誘導班

「習志野の森」で遊ぼう

8月4日　夏の開放日

草笛を教えるみどりの会メンバー

「習志野の森」は8月4日に夏の開放日を迎える。開放は午前10時から午後4時まで。

泉町3丁目の「習志野の森」には古い建物跡も見られ、自然が多く、ヤブサンザシのように千葉県レッドデータブックにある保護対象の植物も少なくない。

市民団体「習志野みどりの会」は毎月第1土曜日に保全のため清掃や手入れを行っており、4月、6月、8月、11月には四季折々の姿を楽しんでもらえるよう開放している。6月、桑は実り、新緑が森をおおう。子供たちは自由に遊び回り、ヤツデの葉を傘にして、ハンモックに寝そべった。習志野みどりの会では「森で学び、森で遊ぶ」と題し、野草観察、ネイチャークラフト「ヒマラヤローズでバラの花」「草ぶえ教室」などを行った。草笛を担当したメンバーは「ネズミモチの葉が向いています。若い葉が鳴らせやすい」と話し、「ふるさと」の曲を森に響かせた。

8月の開放日には「森の中で秘密の小屋作り」が行われる。時間は午後1時から3時30分まで。参加費は300円。習っ子クラブ、習っ子あそびーばーとの共同企画。植物の葉には触れるとかぶれるものもある。夏の森には蜂や蝶などの昆虫もいるが、蚊も多いので、虫よけスプレーなどの持参を。また、習志野みどりの会による「ドングリ博物箱を作ろう」も市民プラザ大久保で開かれる。9種類のドングリを用意。時間は正午から午後4時30分まで。参加費は300円。

湿地交流20周年迎え

谷津干潟フェスタで碑序幕

ラムサール条約登録25周年「谷津干潟フェスタ」が5月3日から6月10日まで津干潟自然観察センターを中心に開かれた。

谷津干潟は約40㌶の泥質干潟で、貝、カニなどが生息し、シベリアなどと東南アジアやオーストラリアを行き来する渡り鳥の重要な中継地となっている。平成5年6月10日、ラムサール条約の登録湿地に認定され、習志野市は9年にこの日を「谷津干潟の日」に制定している。条約登録25周年を記念したフェスタでは「まるごと味わう干潟の幸せ」のテーマで観察会などが催され、6月9日と10日には多数のイベントに大勢の人が訪れた。

オープニングセレモニーでは、習志野市とオーストラリア・クイーンズランド州のブリスベン市との湿地交流20周年を記念した記念碑の序幕が行われた。ブリスベン市のブーンドル湿地を含むモートン湾は谷津干潟の登録と同じ5年の10月22日、ラムサール条約登録湿地となった。7年の「第8回日豪渡り鳥保護会議」で、豪州側から日本へ湿地交流の提案があり、その後、両市は相互訪問などを経て、10年に水鳥の保護と湿地の保全を協力して行う湿地提携を結び、今年20周年を迎えた。

谷津干潟自然観察センターとオーストラリアのブーンドル湿地環境センター、クイーンズランド渉禽類研究会とは交流を重ね、渡り鳥のルートを調べるためのカラーフラッグと呼ばれる足環による標識調査の結果など情報交換を行っている。渡り鳥のキアシシギと同様に、両市の人たちも互いに訪問を重ね、習志野市の「Y&B湿地交流協会」は両市の交流の発展と継続のため、相互の訪問に関する支援活動などで橋渡し役を務めている。

習志野市・ブリスベン市
湿地交流20周年記念碑

プレミアムが登場

「習志野ソーセージ」

「習志野ソーセージPREMIUM（プレミアム）」が本格発売を前に、イオン津田沼店で開かれた「千葉県産フェア」で初披露された。

「習志野ソーセージ」は101年前にドイツ式の製造法が習志野市内で伝えられたという歴史的事実を基に、当時のレシピから現代風にアレンジしたソーセージ。習志野商工会議所では「日本のソーセージ製造発祥の地」を掲げ、有力な地域ブランドとして育て上げるためPRに取組んでいる。

今回、製造から3年目を迎え、新たな地域振興のきっかけになればと、千葉県産の豚肉を使用してワンランク上に仕上げた「習志野ソーセージPREMIUM」を誕生させ、中元・歳暮用のギフトパックも用意された。製造する日東ベスト株式会社の担当者は「なめらかで上品な仕上がりになった」としている。昨年度の販売数量は学校給食の1万本を含め、13万4000本。プレミアムの登場で来年度は17万本を目標にしている。

千葉県産フェアでお披露目

いきいき和やかにプレー

あじさいグラウンドゴルフ

第23回「習志野市あじさいクラブ連合会グラウンドゴルフ大会」が5月24日、袖ケ浦運動公園で開かれた。

雨も上がった運動公園には約200名が集まり、8ホール4コースで、和やかにプレーを楽しんだ。コースではホールポストにボールが当たる音が響いた。女性の参加者は「一つ、一つと思いながら回りました」と丁寧なプレーぶりを話していた。

あじさいクラブ連合会では、高齢者が長寿社会をいきいきと過ごせるように様々な行事を催している。健康スポーツ部では、ペタンク、高齢者スポーツ、パークゴルフの各大会を計画している。

成績が発表され、男性では袖ケ浦長寿会の堀内輝雄さん、女性では東八あじさいの会の籾山紀代子さんが優勝を飾った。参加者にはホールインワン賞ほかが贈られた。

大会結果は次の通り。カッコ内はスコア（同スコアは年齢高位順）。

▽男性＝①堀内輝雄（79）②内田緯（80）③佐藤行雄（80）④菅澤良夫（81）⑤松崎実（82）⑥河原文夫（83）⑦山本英明（83）⑧甲斐義雄（85）⑨高野久夫（85）⑩石井正吾（86）

▽女性＝①籾山紀代子（81）②斉藤勝代（83）③渋谷すみえ（86）④秋山千代（87）⑤安永頼江（87）⑥宮澤美千子（89）⑦安田愛子（90）⑧内田峯子（92）⑨小口法子（92）⑩林崎和子（93）

上位入賞者

晴天の下、和やかにプレー